

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	(有)東海ケア		
事業所名	グリーンホームかさほら I		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成29年9月8日	評価結果市町村受理日	平成29年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2017.022.kani=true&J_gyosyoCd=2171900067-00&Pr_ofCd=21&Ver_si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前が料理旅館であった為、舞台付きの大広間があり、毎朝そこに全員集まり朝の体操、楽器を使って歌ったり、嚙下体操、歩行等を行って一日が始まります。この大広間の掃除はⅠとⅡが交代で毎日利用者さんと職員で行っています。利用者の方も率先して行ってくださいます。ドライブ方々公園に行き、そこで歩ける方には歩いて頂いて筋力低下を軽減出来る様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者を尊重し、叱らず制止せず出来ることを行ってもらい自立した生活が送れる支援に取り組んでいる。外部評価の自己評価を全職員が行い日頃のケアの反省や気付き、新たな目標を持つことにも役立っている。代表者は運営推進会議を地域の人や行政に相談する場と考え、事業所の些細なことや内情も話しアドバイスを受けて会議を有効に活かしている。舞台付きの大広間があり、毎朝体操をやったり、カラオケ・リクリエーションなど体を動かして楽しめるよう支援している。また、ボランティアによる踊りや演奏など本格的に行い、家族や地域の方も誘って楽しんでいる。地域と災害時の協力協定書を結び、市の福祉避難場所に指定されている。台風が近づくと近所の独居高齢者が自主的に事業所に避難して来るなど、互いに助け合い協力し合う関係を築き地域に根差した事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の引継や月1回のミーティング時に、理念の唱和を行い、常に念頭に置き、理念から外れたと思う時は、その場に置いて話し合うようにしている。	職員は理念の中の「叱らず、制止せず」を常に意識して取り組んでいる。方言など口調がきつく感じられる時は、その場で互いに注意し合ったり、ミーティング時に全員で話し合い理念を共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加出来る時は、事業所の代表が地域の一員として交流に努めている。	地域のクリーン活動や福祉祭りに参加している。台風が近づくと避難して来る近所の高齢者に宿泊してもらったり、地域の人も事業所横の川を見回ったり、収穫した野菜をもらうなど互いに助け合いながら交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括が開いている認知症カフェ等へ出かけ、その場で御家の方々と話し合ったりして理解を深めている。 ホーム内を開放して緊急避難所を開設している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員に方々、包括の方、家族の方、時には市議会議員の方にも参加して頂き、状況報告を行ったり、皆様からの意見を伺って参考に参考にして積極的にサービスの向上の取り組んでいる。職員も順次参加して推進会議の内容を理解するように努めている。	代表者は、運営推進会議を相談する場と考え、事業所の実情・困り事・外部評価の報告から意見や提案をもらっている。大雨の不安を相談すると、川に茂った木の伐採に行政の協力が得られ水位が良くわかるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に市役所、包括の方も毎回参加して下さり率直な意見交換をして、協力関係に取り組んでいる。	書類など分からない時はすぐに電話や訪問をして相談している。市主催のグループホーム情報交換会に参加して意見交換をしたり、福祉祭りには利用者とともに作品を出展したりして協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受け、ミーティングで全職員が理解できるよう勉強会を行っている。玄関の施錠においては全くしておらず、玄関の出入り口にチャイムが鳴るようにしている。	職員は研修を受け拘束となる具体的な行為を理解している。寝たきりにならないよう、出来る限り皆と一緒に過ごせるようにと車椅子を利用している。職員はずれ落ちない様にいろいろ工夫してしているがT字ベルトを使用している人がいる。	家族の同意を得て書類を作成し、職員間で話し合い検討もしている。今後も継続的に話し合い、さまざまな工夫を試みながら、ベルト使用をなくすよう取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受け、ミーティングで全職員で話し合っている。また、入浴時にも体のチェックをする様にしている。小さな事でも何か見つければ原因究明に努める。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在活用しているので理解は出来ている。また、後見センターが開くシンポジウムに参加をしたりして理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、家族に納得できる様説明し、トラブルのない様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方と職員は、常にコミュニケーションを取る様、面会の時や推進会議の時等に意見を聞き、家族の要望に答えている。	家族の訪問時には必ず話し、毎月便りを出して意見や要望を聞いている。利用者から職員の身だしなみについての意見があり、話し合っ直した。また、居室に鍵を付けたいとの申し入れがあり、現在検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、管理者は常に現場に居てコミュニケーションが取れるようにしている。 シフトも出来る限り、職員の要望を取り組み、休みたい時に休める様に努めている。	毎月のミーティング時や直接職員に意見や要望を聞いている。出された意見はその場で話し合っている。研修会などは出勤扱いで参加しやすくし、休みも希望でとれるようにして働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、個々の立場も理解し、ストレスを感じない様、資格取得や研修に向けた支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容により受講対象者や自発的に希望する職員が取り組み、また受講者はミーティング時に発表し勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市の開催で、グループホーム職員情報交換会があり、市の関係者(福祉課、包括支援センター)の参加有り、気軽な意見交換が出来ている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の今までの生活歴など把握し、不安の無い安心して生活出来るような言葉掛けに心掛ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が一番困っている事、またどの様にしたいのか要望を聞き、問題点等共有しよく話し合っって信頼関係に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望、他のサービスを利用する必要があるかどうかよく話し合い対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、今その人が出来る事は行なってもらい、お互いに認め合い仲良く生活出来る関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と病院に行ったり、外出をし食事をしたり、一時帰宅したりと共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方々も段々足が遠退く様になって来る為、陽気の良い日は馴染みの場所にドライブに行ったり、思い出話をしたりと、職員も支援に努めている。	日々の会話や家族から情報を得て馴染みの場所や人の把握をしている。友人などの訪問時には再訪を依頼している。思い出話をしたり、昔住んでいた家の近くをドライブしたりして関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様声掛けをしたり、皆で輪になり話をしたり、風船バレーをしたりして、利用者同士が関わりあえる支援に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後のフォローは難しく遠退く事が現状ではあるが、入院中であればお見舞いに行ったり、納涼祭時にお手紙で参加を呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の今までの生活を把握する事は勿論だが、本人の何気ない一言を聞き逃さず、担当者報告メモに記入して、職員間でその思いを受け取り、その意向に沿えるよう努めている。	利用者の生活歴を知り、日々の会話の中から思いや意向を把握して、職員間で情報を共有している。困難な人の場合は、いろいろ選択肢を出して言ってもらえるように話しかけ思いに沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、昔の仕事、遊び、趣味等を聞き出したり、生活歴や生活環境等は家族からも聞き、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を把握し、心身の健康状態の変に気づき、日報、申し送りノート等で全員が把握できる様努めている。一人ひとりの意思を尊重し、ゆったりと過せる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ケアマネ、担当者で話し合い、意見要望を取り入れ、介護計画を作成している。	面会時に家族に要望を聞き、担当職員の意見を基にミーティングで話し合い介護計画を作成している。介護認定更新時と状態の変化に応じて見直すことはあるが、定期的なモニタリングと随時の見直しを行っていない。	モニタリングを定期的に行い、利用者の現状に即した介護計画が作成できるよう取り組むことを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の日報に記録し、朝夕の申し送り等で個々の様子を職員間で情報を共有に話し合い、意見交換をし見直しが必要かどうか検討する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院への付き添いや、主治医の指示にて別の病院への紹介を頂き受診する。歩行できる方達と、近所のスーパーへ買物へ行く支援に取り組んでいる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェに利用者と職員と出掛けたり、地域のイベントに利用者の皆さんが作った作品を出品させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療時の受診について、家族の同意書と交換し理解を得ている。また家族が医師に説明を求める時はホームにて訪問診療時に医師から説明を受けられる。	訪問診療を希望し協力医に変わる人が多い。かかりつけ医を受診する時は家族の同行を基本としているが、職員が付き添うこともある。受診時は利用者の状態のメモを渡し、受診後は結果を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間で個々の体調の変化に気づき、情報を共有し訪問診療医の看護師に連絡し指示を受け、また主治医に連絡してもらい指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は見舞い、洗濯物の受け渡しに行った時に、治療状況や体調等、情報を得ている。また病院の相談員の方とも情報交換をし、より良い関係を作るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については全職員が理解し、かかりつけ医と密に連絡を取り、条件付になりますが見取りもできる様支援に努めている。3名の看取りを経験しました。	利用者・家族には契約時に事業所の方針を説明している。状態に応じ家族と話し合い意思の確認もしている。医師からも家族や職員に説明があり、本人・家族の希望に添うよう全員で方針を共有して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急講習を定期的に受講し、応急手当、初期対応等身に付け、実践力につなげる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より定期的に防災訓練を実施し、地域住民の方との協力を得る書類も交換し、近くの独居老人の方の避難場所としても提供している。	夜間想定を含む防災訓練の他に水害時の訓練も行っている。地域と災害時の協力協定書を毎年結んでいる。運営推進会議で備蓄について相談し、物品や量のアドバイスを受け揃えることが出来た。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ誘導の言葉掛けには気をつけて対応している。 名前を呼ばせて頂いているが、本人がチャン付けで呼んで欲しいといわれる方は、○ちゃんと呼ばせて頂いている。	一人ひとりの性格を把握し、その人に合わせた声かけを心掛けている。トイレ誘導の際には耳元で出来る限りトイレと言わないで誘うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、体操、レクリエーション、入浴など無理強いする事無く本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースに合わせて、テレビを観たり、居眠りしたり、新聞や雑誌を読んだりと本人の希望意思に沿って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択できない方は、職員が決めて、自分で出来る方は好みの物を着用され、カチューシャや自分たちで作ったネックレス等をされている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料や好みの食材を取り入れた献立を考え、楽しんで頂けるよう工夫をしている。利用者の方には、テーブル拭き、下膳等、その時に出来る事を支援している。	もらった野菜と買い物に毎日行って新鮮な食材で利用者の好みや体調を考慮し調理している。一度に並べると混乱する人には、一品ずつ出す工夫をしている。同じものを食べているが、利用者とテーブルが分かれおり食事時の会話がなない。	利用者と職員が楽しく会話をしながら食事ができるよう工夫されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食べる量や食べ易い摂取方法で支援し、水分は声掛をこまめに何度も摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前のみで食後の口腔ケアが出来ないのが現状です。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方はそれとなく見守り、介助の必要な方は時間を見て声掛け誘導を行っている。 リハパンでかぶれてしまう方は布パンにパット等で支援をしている。	排泄パターンを把握して、トイレに誘導している。夜間はポータブルトイレを使用する人もいるが、時間を見計らってトイレでの排泄を支援している。パットなどを工夫して自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物の工夫は勿論のこと、個々の状態を把握し、便秘薬を服用する場合は、主治医と相談の上個々の状態に合わせて服用し、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入用剤の使用、足湯、シャワー浴等で入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。	一日おきの入浴を支援し希望に応じ毎日も可能である。会話やカセットで歌を聞いたり、柚子湯や入浴剤を入れたりして楽しめる工夫をしている。入浴を拒む人には誘い方を変えたり無理強いをせず日を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調に応じて何時でも横になって休めるよう対応している。 日中は体を動かす様、体操、歌、外出をしたりして、夜眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を理解し、薬の変更があれば申し送りしノートに記入して全職員が把握出来る様、また誤薬のない様二人の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には担当者が計画を立て、外出出来る人は外食を楽しみ、出来ない方はケーキやプレゼントを用意し、皆さんでお祝いをする。 歩ける方はスーパーへ買物に行ったり、花の水やりを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行ったり、誕生日には外食であったり、喫茶店でお茶をする等戸外に出掛ける。家族との外食に出掛ける等支援している。四季折々にはお弁当を持って、花見、紅葉狩り等にも出掛けている。	天気の良い日は戸外に出るようにしている。散歩や買い物・喫茶店に行ったり、初詣や地域のお祭り、市の福祉祭りに出かけたりしている。家族の協力を得て外食や自宅に泊まる人もいる。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は持たない様に本人家族に理解して頂いているが、自己管理出来る方は所持されている。事務所で預り必要に応じて使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて電話をしたり、手紙を送ったり支援をしている。(自分で書けない方は職員が書いている)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が生けてあったり、作品が飾ってあったりして季節感を採り入れている。温度はこまめに調節して体調に合わせる様にしている。	各所に大きな時計があり、トイレなどの表示は見やすく書いてあるが、家庭的な雰囲気は大切にしている。玄関や廊下・居間には生花や皆で作った季節毎の作品を飾り、中庭のペランダに洗濯物を干すなど、季節感や生活感を採り入れる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル、ソファー、大広間の椅子、廊下の長椅子、事務所等、独りになれる場所は多く有り、思い思いに過ごせる様に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の必要に応じ使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、居心地良くすらげる様配慮している。	ベット・整理ダンス・テーブル・テレビなど使い慣れた好みの物を持ち込んでいる。ぬいぐるみや写真を飾ったり、ベットを使わず和室のようにしたりしてそれぞれの思いに配慮し、居心地良く過ごせるようしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計、カレンダーは利用者の方が見やすい所に設置してある。個々に出来る事を活かし、洗濯物を畳む、大広間のモップ掛け、玄関の花の水やり等、自立した生活が送れる様工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	(有)東海ケア		
事業所名	グリーンホームかさほら II		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成29年9月8日	評価結果市町村受理日	平成29年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani_tru&aj_gvosyoCd=2171900067-00&PrEfCd=21&VerSionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前が料理旅館であった為、舞台付きの大広間があり、毎朝そこに全員集まり朝の体操、楽器を使って歌ったり、嚙下体操、歩行等を行って一日が始まります。この大広間の掃除はⅠとⅡが交代で毎日利用者さんと職員で行っています。利用者の方も率先して行ってくださいます。ドライブ方々公園に行き、そこで歩ける方には歩いて頂いて筋力低下を軽減出来る様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の引継や月1回のミーティング時に、理念の唱和を行い、常に念頭に置き、理念から外れたと思う時は、その場に置いて話し合うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加出来る時は、事業所の代表が地域の一員として交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年台風の時は避難して来られる方もいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員に方々、包括の方、家族の方、時には市議会議員の方にも参加して頂き、状況報告を行ったり、皆様からの意見を伺って参考にして積極的にサービスの向上の取り組んでいる。職員も順次参加して推進会議の内容を理解するように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に市役所、包括の方も毎回参加して下さり率直な意見交換をして、協力関係に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受け、ミーティングで全職員が理解できるよう勉強会を行っている。玄関の施錠においては全くしておらず、玄関の出入り口にチャイムが鳴るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受け、ミーティングで全職員で話し合っている。また、入浴時にも体のチェックをする様にしている。小さな事でも何か見つければ原因究明に努める。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在活用しているので理解は出来ている。また、後見センターが開くシンポジウムに参加をしたりして理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、家族に納得出来る様説明し、トラブルのない様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方と職員は、常にコミュニケーションを取る様、面会の時や推進会議の時等に意見を聞き、家族の要望に答えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、管理者は常に現場に居てコミュニケーションが取れるようにしている。 シフトも出来る限り、職員の要望を取り組み、休みたい時に休める様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、個々の立場も理解し、ストレスを感じない様、資格取得や研修に向けた支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容により受講対象者や自発的に希望する職員が取り組み、また受講者はミーティング時に発表し勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市の開催で、グループホーム職員情報交換会があり、市の関係者(福祉課、包括支援センター)の参加有り、気軽な意見交換が出来ている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の今までの生活歴など把握し、不安の無い安心して生活出来るような言葉掛けに心掛ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が一番困っている事、またどの様にしたいのか要望を聞き、問題点等共有しよく話し合っって信頼関係に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望、他のサービスを利用する必要があるかどうかよく話し合い対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、今その人が出来る事は行なってもらい、お互いに認め合い仲良く生活出来る関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と病院に行ったり、外出をし食事をしたり、一時帰宅したりと共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方々も段々足が遠退く様になって来る為、陽気の良い日は馴染みの場所にドライブに行ったり、思い出話をしたりと、職員も支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様声掛けをしたり、皆で輪になり話をしたり、風船バレーをしたりして、利用者同士が関わりあえる支援に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後のフォローは難しく遠退く事が現状ではあるが、入院中であればお見舞いに行ったり、納涼祭時にお手紙で参加を呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の今までの生活を把握する事は勿論だが、本人の何気ない一言を聞き逃さず、担当者報告メモに記入して、職員間でその思いを受け取り、その意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、昔の仕事、遊び、趣味等を聞き出したり、生活歴や生活環境等は家族からも聞き、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を把握し、心身の健康状態の変に気づき、日報、申し送りノート等で全員が把握できる様努めている。一人ひとりの意思を尊重し、ゆったりと過せる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ケアマネ、担当者で話し合い、意見要望を取り入れ、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の日報に記録し、朝夕の申し送り等で個々の様子を職員間で情報を共有に話し合い、意見交換をし見直しが必要かどうか検討する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院への付き添いや、主治医の指示にて別の病院への紹介を頂き受診する。歩行できる方達と、近所のスーパーへ買物へ行く支援に取り組んでいる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェに利用者と職員と出掛けたり、地域のイベントに利用者の皆さんが作った作品を出品させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療時の受診について、家族の同意書を交換し理解を得ている。また家族が医師に説明を求める時はホームにて訪問診療時に医師から説明を受けられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間で個々の体調の変化に気づき、情報を共有し訪問診療医の看護師に連絡し指示を受け、また主治医に連絡してもらい指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は見舞い、洗濯物の受け渡しに行った時に、治療状況や体調等、情報を得ている。また病院の相談員の方とも情報交換をし、より良い関係を作るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については全職員が理解し、かかりつけ医と密に連絡を取り、条件付になりますが看取りもできる様支援に努めている。3名の看取りを経験しました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急講習を定期的に受講し、応急手当、初期対応等身に付け、実践力につなげる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より定期的に防災訓練を実施し、地域住民の方との協力を得る書類も交換し、近くの独居老人の方の避難場所としても提供している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ誘導の言葉掛けには気をつけて対応している。 名前を呼ばせて頂いているが、本人がチャン付けで呼んで欲しいといわれる方は、○ ○ちゃんと呼ばせて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、体操、レクリエーション、入浴など無理強いする事無く本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースに合わせ、テレビを観たり、居眠りしたり、新聞や雑誌を読んだり と本人の希望意思に沿って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択できない方は、職員が決めて、自分で出来る方は好みの物を着用され、カチューシャや自分たちで作ったネックレス等をされている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料や好みの食材を取り入れた献立を考え、楽しんで頂けるよう工夫をしている。利用者の方には、テーブル拭き、下膳等、その時に出来る事を支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食べる量や食べ易い摂取方法で支援し、水分は声掛をこまめに何度も摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は一日に何度も口をゆすがれている。出来ない方は食後声掛や、介助にて口をゆすぐ支援をしている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方はそれとなく見守り、介助の必要な方は時間を見て声掛け誘導を行っている。 リハパンでかぶれてしまう方は布パンにパット等で支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物の工夫は勿論のこと、個々の状態を把握し、便秘薬を服用する場合は、主治医と相談の上個々の状態に合わせて服用し、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調、気分を考慮し、湯の温度もその方に合わせる様にし、拒む方には職員も交代してチームプレーで支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調に応じて何時でも横になって休めるよう対応している。 日中は体を動かす様、体操、歌、外出をしたりして、夜眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を理解し、薬の変更があれば申し送りしノートに記入して全職員が把握出来る様、また誤薬のない様二人の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には担当者が計画を立て、外出出来る人は外食を楽しみ、出来ない方はケーキやプレゼントを用意し、皆さんでお祝いをする。 歩ける方はスーパーへ買物に行ったり、花の水やりを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行ったり、誕生日には外食であったり、喫茶店でお茶をする等戸外に出掛ける。家族との外食に出掛ける等支援している。四季折々にはお弁当を持って、花見、紅葉狩り等にも出掛けている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は持たない様に本人家族に理解して頂いているが、自己管理出来る方は所持されている。事務所で預り必要に応じて使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて電話をしたり、手紙を送ったり支援をしている。(自分で書けない方は職員が書いている)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が生けてあったり、作品が飾ってあったりして季節感を採り入れている。温度はこまめに調節して体調に合わせる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル、ソファー、大広間の椅子、廊下の長椅子、事務所等、独りになれる場所は多く有り、思い思いに過せる様に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の必要に応じ使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、居心地良くやすらげる様配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計、カレンダーは利用者の方が見やすい所に設置してある。個々に出来る事を活かし、洗濯物を畳む、大広間のモップ掛け、玄関の花の水やり等、自立した生活が送れる様工夫している。		